

島のむんがたり

50年前のファッション事情

8月30日～9月10日まで徳之島町郷土資料館で博物館実習をした廣尾ゆりかと申します。実習を通じて感じたことを紹介します。

私は、インターネット通販を利用して1ヶ月に1着ずつ洋服を購入することが毎月の楽しみになっています。そんな時にふと、現在はインターネットを通して画像を見ながら洋服を選んで買うことができるけれど、昔の徳之島の人たちはどんなお店でどんな服を選んで買っていたのだろうと疑問に思いました。

そこで祖母（牧住子）に尋ねてみたところ、祖母が若い時に着ていた服は「よしむら」で購入し、化粧品は「山形屋」というお店で購入していたとのこと。現在も服のほとんどをよしむらで購入し

ていて、「友の会」にも入会しています。当時の祖母は、おしゃれをすることが好きで、ノースリーブのワンピースやスカートを着て出かけることが一番の楽しみだったそうです。

祖母の話から、「山形屋」とい

う今はないお店が出てきたので調べてみました。徳州新聞を見たところ、昭和42年3月6日に発行された紙面で山形屋の広告が掲載されていました。他にも今の徳之島にはない「甲斐商店」「めぐみ屋」というお店があり、想像していたよりもいろいろなお店があることに驚きました。当時のよしむらでは、岡山県にある大手学生服業4社のうちの1つである富士ヨットの学生服や1875年創業のドイツのインナーウェアメーカーであるシーサーの肌着も取り扱っていました。めぐみ屋では紳士服や婦人服を中心に取り扱っていて、当時では珍しい月賦払い制のお店であったそうです。甲斐商店と山形屋ではそれぞれカネボウと資生堂のチェーンストアとなっていて、



徳州新聞と昭和42年3月6日号の広告

山形屋では毎年資生堂の美容担当部員によるリップアート発表会や相談会といったイベントも開催されていました。

当時の日本は、海外の有名デザイナーブランドの流行や「ミニスカートの女王」と呼ばれるツイッギーが来日したことでミニスカートブームに拍車がかかるなど、海外からの新しいスタイルを多く取り入れた時代だったと思われるます。これからの未来でも、人々の服に対する想いや喜びは変わらないのかもしれない。

【長崎国際大学4年 廣尾ゆりか】

問 郷土資料館

☎ 0997-82-2908



町郷土資料館で博物館実習を行った廣尾さん